

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第191号(2023. 1. 1)
事務局 川西地区自主防災会



新春対談



香川県危機管理総局長の田中一裕氏とかがわ自主ぼう連絡協議会会長の岩崎正朔氏のお二人に新春対談をお願いしました。司会は香川県危機管理課の岡さんです。

【司会】

新年あけましておめでとうございます。ただいまより、かがわ自主ぼう連絡協議会会報誌「防災・減災の輪」新春対談を始めます。それではまず、今年の活動から振り返っていきたいと思います。昨年は一昨年と比べまして、コロナウイルス感染症における行動制限なども緩和されてきて、自主防災活動もコロナ前の状況に少しずつ戻ってきたかと思いますが、岩崎会長はどう思われますか。

【会長】

明けましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。

そうですね、教育機関が、元気を取り戻してきており、学校での防災訓練の指導など、コロナ禍以前の活動の8割程度まで戻ってきているように感じます。

しかし、まだ地域の方々が用心しているという状況で、特に福祉施設がクラスターの発生を用心して活動が戻ってきていない状況です。そのため、福祉施設の業務継続計画作成の支援や福祉施設の職員だけを対象とした研修など、コロナ禍でもできる支援を昨年は行ってきました。

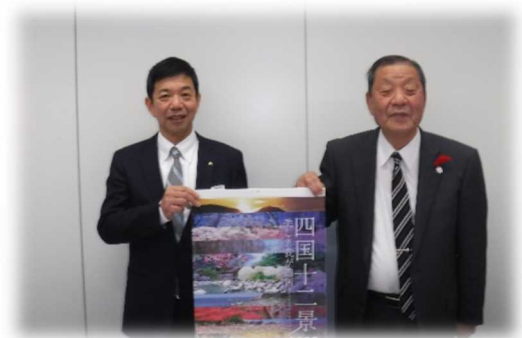
全体で見ると、コロナ禍前と比べて6割程度、自主防災活動が回復したと感じています。

【総局長】

明けましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。

コロナ禍であっても、南海トラフ地震をはじめ災害は待ってくれませんので、県民の生命や財産を守るために、昨年も自助・共助・公助が連携した防災力の向上を図るため様々な普及・啓発をはじめとした活動に取り組んできたところです。

具体的には、検温や消毒などを徹底し、県民防災週間に併せて、昨年7月には「防災シンポジウム」を開催したほか、11月の「香川県シェイクアウト訓練」には、約25万人の方に参加していただくとともに「プラスワン訓練」も一緒に実施してもらったなど、県民の皆さんの防災意識の向上に努めました。



また、10月には、「総合防災訓練」を消防学校で実施し、情報伝達、避難所設営や運営といった、様々な内容を盛り込んだ訓練を行いました。

こうした中、共助の要としての自主防災組織の活性化は重要ですが、令和4年4月時点での本県の自主防災組織カバー率は97.2%と数字だけで見ると高い数値ではあるんですが、実際は活動が活発でない組織も含まれています。

このため、「香川県自主防災活動アドバイザー派遣事業」や「フォローアップ事業」などを実施していますが、やはり県だけでできる範囲は限られていますので、かがわ自主ぼう連絡協議会をはじめ関係団体の方々のご協力を頂きながら、取り組んできたところであり、今年も引き続きよろしく申し上げます。

ところで、昨年はかがわ自主ぼう連絡協議会が結成されて15周年ということで、5月には私も参加させていただいた「記念講演会」を開催されました。これも、ひとえに会長をはじめかがわ自主ぼう連絡協議会の会員の皆様方のこれまでの活動の賜物と思います。この15周年の活動を振り返っての思いなど、いろいろと教えていただけたらと思います。

【会長】

ありがとうございます。

最初は高松の太田地区の会長さんと三豊市の行政の方と私3人が集まって、県内で同じ目線で活動する自主防災組織のメンバーの輪を作ろうということでかがわ自主ぼう連絡協議会が始まりました。

結成当初は、なかなか人が集まらず、活動経費もなかったため、最初の4~5年の活動は大変でした。

しかし、協議会の活動を続けていく中で、香川県のOBの方などが活動に参加してくれるようになり、協議会の活動が軌道に乗り始めました。また、それぞれの会員が地域の自主防災組織に、協議会への参加を広げていったことで、県全体での防災の輪ができたと思います。

そういった、今までの人と人とのつながりを大切にしてきたことが、今の協議会の活動につながってきたと思います。



【総局長】

私も、防災・減災対策を行う上で人のつながりというか、人と人との関係づくりは非常に大切なことだと思います。

また、会長の地元の川西地区では、若い方が活動に参加されているとお聞きしていますし、昨年実施した総合防災訓練では、技能実習生の方も参加されていましたが、自主防災組織の人材の確保、育成について、どのように考えておられますか。

【会長】

そうですね、次世代の人材の確保、育成ということで、今活動している主なメンバーというのが、60代後半から70代がメインとなっているので、40代や50代の方々にも活動の場を設けるようにしています。また、少しずつではありますけれども、20代や30代の

方も入ってきております。

今年から初めて、外国からの技能実習生とともに、防災訓練を行いました。実習生も、地域の人たちと一緒に、防災活動をはじめいろいろなことに参加してみたい、ふるさとの踊りや歌を紹介したいと思っております。防災訓練等を通じて、そういった実習生と地域の方々のつながりの輪を広げていけたらと思っております。

【総局長】

そのような取組みを通じて「防災・減災の輪」が県内に広まったらいいと思いますね。

【司会】

さて、毎年、県が実施している自主防災組織リーダー研修会が、昨年12月に開催されました。研修会において、炊き出し訓練、避難所設営訓練や、先進事例の紹介といったところを、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様にご指導いただいたところです。訓練で新たにとり入れた知見とか工夫について伺いたいと思います。

【会長】

今回の訓練では久しぶりに炊き出し訓練をおこないました。同じものを一緒に食べることにより、参加した方々の中で一体感を作ることができます。昨年、地域での防災訓練を行ったときにも、生姜湯を作って皆さんにお配りしました。防災訓練でも、泥臭い中でみんなが共通のテーブルについて、一緒に同じものを食べて、また次頑張ろうという力につなげていくのは、炊出しの力だと思います。避難生活においても、元気を出すためには、炊出しというのは一番大事です。

今回の避難所設営訓練では、少し細かいところまで気を使ってもらえるように指導を行いました。例えば、マットを敷いてもらうとか、段ボールベッドを備蓄するようお願いしました。普段の生活で、ベッドで寝ている人が増えてきていますので、そういう観点から、避難所での生活でもベッドが使えるように準備していく必要があると考えています。

また、今回初めて医療用電源の設営を行いました。この地域でも、要配慮者の中で、医療用の電源が必要な方が何人かいます。一日何時間かの停電があっても、電源を確保できるような発電機を用意する必要があります。それに、発電機は排ガスが出ますので、屋外に設置して、電源コードを室内に引っ張ってくるという基本的な動作を学んでいただきました。



令和4年度自主防災組織リーダー研修会での訓練の様子

【総局長】

私も、自主防災組織リーダー研修会に参加して、研修内容を見学しましたが、炊出し訓練でいただいた豚汁は絶品で、心も体も暖まり本当においしかったです。また、会長が言われた通り、一緒に同じものを食べたことで参加者の中に輪ができていたように感じまし

た。

避難所運営訓練では女性のリーダーの方が、参加者の皆さんに厳しくも優しく、すごい雰囲気です。今回の訓練では、避難所設営訓練においても、女性の会員さんが積極的に声を出して指導されていたことが、非常に印象に残りました。

【会長】

そうですね、一般的に女性のほうが訓練を行ったときに細かいところまで丁寧に指導をしているように感じます。

例えば、土嚢づくりの訓練などでも、女性の方は非常に丁寧に教えてくれるんですね。それに、小学生や児童を教えるのは女性のほうが上手いように感じます。これからの自主防災組織のリーダーには女性の方が多く参加して頂けるようになれば、活動の細かいところにも気が付いて、良い組織になっていくと思います。



【総局長】

自主防災組織リーダー研修会の中で、地区防災計画についての研修もありました。県としても、「地区防災計画策定の手引き」を作成するなどしていますが、なかなか進んでおらず、令和3年度末時点で6市6町の46地区でしか策定できていません。

このため、今年度から「地区防災計画策定促進事業」を実施しており、少し大きな小学校区単位で計画を策定するのに必要な防災まち歩きとか、専門家を招いての勉強会などの経費を上限30万円で補助をさせていただいています。今年度は14団体に補助しておりますが、今回の研修会に参加された方々がそこで学んだことを生かして、地区防災計画の作成に取り組んでいただけたらいいなと思っております。

【司会】

自主防災組織リーダー研修会においては、会長をはじめ、講師で来られた、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様方が本当に活発に活動されていましたが、何か健康面で気を付けていることはありますか。

【会長】

一つは、朝起きたら口の中をきれいにするということです。熊本地震の際に、支援に行った避難所で、避難所全体の健康管理をされていた歯科医の先生が、「朝起きたら、ティッシュやハンカチでもいいから、口の中をきれいにしてしまおう」と指導しておりました。歯科医の先生が指導を始めてから、その避難所で避難されている方の健康状態がとても良くなったと感じました。

我々も取り入れようということで、朝起きたら口をゆすいで歯を磨いてから食事をするということ、かがわ自主ぼう連絡協議会のメンバー全員で続けています。

二つ目はよく噛んで食べるということです。

15年ほど前に、三豊市の仁尾の小学校に訓練支援に行った時に、その校長先生が生徒

に「食事をするときはしっかり噛んで食べましょう」と指導をしておりました。小学校での防災訓練が終わった後に、生徒の皆さんと一緒に昼食をとることになりました。私は、メンバーの中では一番食事の時間が長いのですが、その時は食べ終わるのが、私が一番早いほど、生徒たちはよく噛んで食事をしていました。校長先生の話によると、よく噛んで食べるように指導をしてから、休む生徒が少なくなったそうです。

朝起きたら口の中をきれいにする、食事をするときはしっかりと噛む、この2点は継続しております。

【総局長】

私も以前、健康福祉部の健康福祉総務課や長寿社会対策課に在籍していた時に、多くの歯科の先生に健康長寿を考える上で口腔ケアは大切であると言われました。この前の自主防災組織リーダー研修会の訓練でも、避難所のスケジュールとして張り出されていた日程の中に、口腔ケアの時間が組み込まれていましたね。

【会長】

この3年間のコロナ禍で、いろいろな面で周囲の環境が変わりました。九州の人吉市で球磨川が氾濫したとき、私たちは10人ぐらいのメンバーで被災地支援に行こうと準備をしていたんですが、コロナが一番厳しい時期でしたので、県外のボランティアは参加することができませんでした。また、今まで訪問活動や防災訓練ができていたのが、コロナの影響でできなくなったものだから、自分たちの活動の源が断たれたという感じになりました。

このまま、活動をしていかない場合、コロナ禍が終わった後、活動を再開するのは大変だと感じました。そこで、私の地元の川西地区においては、土地所有者の了承のもと、地域の荒れ果てていた竹林を再生する取組みを始めました。この取組みの中で、重量物の運搬や、休憩時の炊出しなど、防災につながる動きを取り入れ、いざという時に、いつでも動ける体づくりを行ってきました。また、空気の良いところで緑を増やしていくような作業をすることで、気持ちがきれいになるといいますか、モチベーションを保つことができましたと思います。

【司会】

さて、空気の良いところで緑を増やしていく取組みが、心の健康につながるのお話でしたが、会長は気分転換も兼ねて、美しい景色などの写真撮影を趣味とし、本日も持参いただいたカレンダーの作成も行っていると伺いましたが、いつごろから取り組まれてますか。

【会長】

写真撮影は24~25年前から続けているんですけども、趣味が高じて自分でカレンダーを作成するまでに至りました。

きれいな風景を撮りにいろいろなところに足を運ぶのですが、職業病といいますか「この地形は土砂崩れが起きそうやな」みたいな、防災の目線でも考えてしまいます。写真を

通して美しい自然を感じながら防災のことについても考える良い気分転換になっています。

【司会】

それでは、最後に、新年を迎えるにあたって、今年力をいれていきたい取り組みについて伺います。



【会長】

コロナ禍の影響によって、かがわ自主ぼう連絡協議会と市町の危機管理担当課の皆さんとの意見交換があまりできていない状況です。「我々は、自主防災組織活性化に向けて、こういう支援ができますよ」ということをまとめた資料もありますので、今年は市町の危機管理担当課の皆さんと、中身の濃い意見交換を行い、市町との連携を深めていこうと思います。市町との意見交換の中で、自主防災活動が活発でない地域を紹介してもらい、そのような地域を訪問して、町中ウォッチングによる地域の状況把握をはじめ、自主防災活動活性化の支援を行っていこうと思います。

また、先ほど総局長がおっしゃっていた地区防災計画についても取り組んでいこうと思っています。現在、3か所の地域にアプローチをしているところで、一緒に勉強していきましょう、という感じで動いているところです。

【総局長】

新年は、昨年にも増して、新型コロナウイルス感染症の影響から脱して、社会が平常に戻ることを願っています。

そのような中、やはり、自助・共助・公助が適切に相まっていくことによって、県の防災対策が進んでいくと考えています。香川県は災害が少ないから安心だという認識があるので、もう一度県民の皆さんに、防災意識を高めていただけるよう、家具の転倒防止や備蓄などの普及啓発も行っていきたいと考えています。

また、これまでも自主防災活動の活性化に向けて、自主防災活動アドバイザー派遣事業や地域の訓練支援などを行ってきましたが、この3年間、コロナ禍の影響で自主防災活動の取り組みが低調になっていましたので、今年はこの3年間を取り戻せるように精力的に取り組んでいきたいと考えています。

さらに地区防災計画についても、一つでも多くの地区で作成していただけるよう、県としても計画作成の支援をしていきたいと考えておりますので、岩崎会長をはじめ、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様のご協力を引き続きお願いいたします。

【司会】

まだまだ談論風発といったところですが、このあたりで、新春対談を終わらせていただきたいと思います。本日は、お忙しい中、誠にありがとうございました。

本年もよろしくお願ひいたします！



新年明けましておめでとうございます！

ウイズコロナに突入した社会活動、自主防災活動においても令和5年度からは、かがわ自主ぼう連絡協議会においても新たな気持ちで事業の推進が必要でないかと思っています。

< 今後の検討案 >

1. 小中学校への防災研修の勧め、紹介を担う青少年の皆さまへ防災・減災の大切さを身に着けていただく。
2. 地域の自治会・自主防災会へ積極的なアプローチと市町の防災担当部門との連携強化をはかる。
3. かがわ自主ぼう連絡協議会役員に女性の仲間を増やすこと、更に簡易なユニホーム等の作成検討する。
4. 会報発行 200 号記念に伴う特別寄稿者、関係者座談会等開催検討を行う。
5. 地区防災計画作成支援も積極的に展開したい。

以上

本年も皆様とともに地域防災力強化に励みましょう。



編集後記

1月の防災減災の輪は、香川県危機管理総局長の田中一裕氏とかがわ自主ぼう連絡協議会会長の岩崎正朔氏の新春対談を掲載させていただきました。ありがとうございました。今年もどうぞよろしく願いいたします。